

環境まちづくりをめざす

あじえんだ

夏
2000

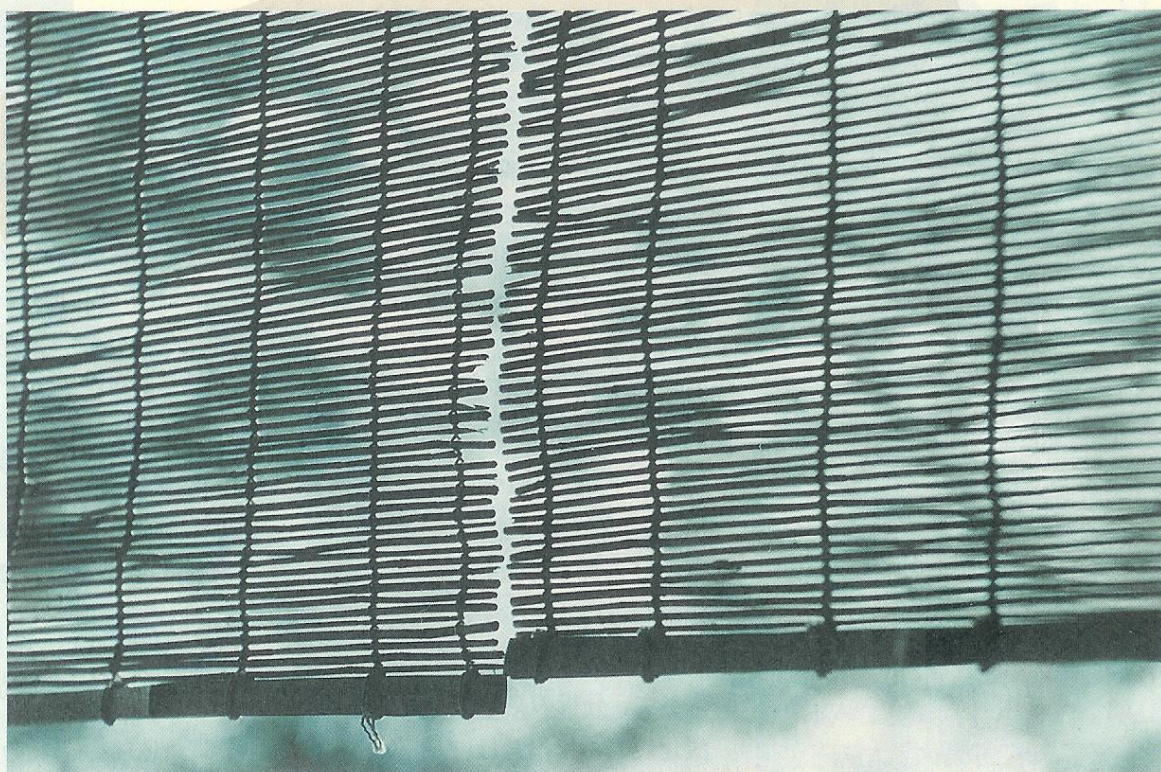
第4号

2000年7月15日発行

みやこ
京
のアジェンダ21フォーラム
ニュースレター

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。

「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



アジェンダを語る

京のアジェンダ21がめざす新しい交通システム — 都心の自動車を減らすとこんなことが！

観光地や中心部の人々はどうなるのか？ シミュレーションで分析しました

アジェンダ見聞録

水俣市が進める住民協働の環境モデル都市づくり
～ ローカルアジェンダ21としての水俣市の取組 ～

あじえんだ NOW

環境まちづくり交流会 in 京都
KES (Kyoto Environmental Management System Standard) (仮称) 試行迫る

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

津村昭夫さん

未来に残したい…
京の知恵

のき
軒すだれ

ものを大切に扱い、
節約を心がけて町と一緒に生きる。
しかし、それが同時に
暮らしの美をも生み出すことを、
この軒すだれという伝統のエコロジーは
教えて下さる。

写真 山口洋典
協力 上京区 佐野邸

*詳しくは5ページをご覧ください

アジェンダを語る

MIYAKO no Agenda21

みやこ 京のアジェンダ21がめざす 新しい交通システム 都心の自動車を減らすとこんなことが！

さとし
藤井 聡 さん

1968年奈良県生まれ。
1993年京都大学大学院工学研究科修了、現在京都大学大学院工学研究科土木システム工学専攻助教授。博士（工学）。研究分野は、交通計画・交通工学・交通行動分析・アクティビティ分析・意思決定研究。



ヨーロッパでは、1960年代に自動車が社会生活に不可欠なものとなり、道路拡張をするか、自動車規制をするかを選択しなければならない状況になりました。そして、自動車規制を選択した結果、商店街を通行するお客さんや観光客が増え、売上高が増加し、都心が活性化したという事例が多数報告されています。

さて、京都で自動車の流入規制を行ったら、一体どうなるのでしょうか。藤井聡さんに、京都大学で実施したシミュレーション分析の結果を「環境まちづくり交流会 in 京都」で報告していただきました。

●平日の交通施策 シミュレーション

まず、平日の交通についてのシミュレーションです。これは、京都市民一人一人の平均的な行動と、車一台一台の動きをコンピューター上で再現したもので、(1)東山・北大路・西大路・九条通を巡る環状型LRT (Light Rail Transit: 新世代型路面電車) の復活(2)川端・御池・堀川・四条通で囲まれた都心部で自動車の駐車税を導入(3)自動車の流入規制 という3つの交通施策を考慮しました。

さて、分析の結果です。まず、二酸化炭素の排出量は、LRTや駐車税で数%の減少、流入規制では14.4%もの大幅な削減を見込めることが示されました。(図1参照)

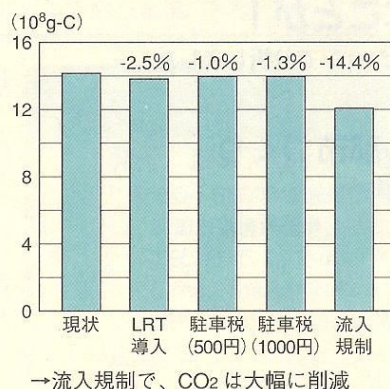


図1 CO₂排出量の削減効果

また、道路の混雑状況ですが、自動車の平均走行速度はLRTや駐車税では特に変わりませんが、流入規制の場合にだけ速度の向上が見込めました。流入規制をすると迂回交通が生じ、規制地域周辺の道路が非常に混雑すると思われていましたが、逆説的な結果になったのです。これは、流入規制によって自動車需要そのものが減少することが原因です。この結果は、流入規制によって運転者の利便性が向上する可能性を示唆していると言えるでしょう。

●地域の活性化には 貢献するの？

都心部の来訪者数の視点も重要です。CO₂は減ったけどお客さんも減ったのでは、地元商店の方々是非常に困り、地域の活性化にはなりません。シミュレーションでは、都心部への来訪者数は、LRTと駐車税はそれほど変わりませんが、流入規制では6.3%減少する結果になりました。海外の事例では、自動車数の削減や排除によって都心部の魅力度が向上し、地域の活性化につながるという筋書きでした。ところが、このシミュレーションでは、自動車の通過交通が減ることによる都市の魅力度の向上を考慮していません。もし

それを考慮すれば、流入交通の減少はさらに小さなものになるかもしれませんし、逆に来訪者は増加する可能性も十分あります。

●休日の観光地における 交通施策シミュレーション

そこで、観光地において自動車の流入規制を行った場合のシミュレーションを行いました。代表的な観光地である嵯峨野・嵐山と、寺町・河原町周辺で、巡回バスによるパーク&ライドシステムを導入した場合の予測です。しかも、「駐車場と巡回バス料金が現状の料金と同等」「バス待ち時間+バス走行時間が自動車アクセス時間と同等」という高サービスのパーク&ライドシステムを想定しました。パーク&ライドシステム導入によって、自動車利用者は、規制地域へ行くことを面倒に感じて忌避する可能性があります。所要時間が20分増加することに対する忌避感はある程度定量化されていますので、パーク&ライドによる忌避感はいくらかと定義しました。また魅力度の向上は、京都市内の平均的な観光地との差が10%大きくなるとイメージしました。

シミュレーションをしてみると、都心エリアへの来訪者数は全体として増加する結果となりました。(図2参照)



図2 交通政策シミュレーション
【規制地域の観光客総数】



ドイツ ブレーメン市都心のトランジットモール（道路から車を排除した商業地域）とLRT（環境市民・秋本育生さん 撮影）

寺町・河原町周辺ではもともと自動車での来訪者が少なく、それが多少減っても、全体として都心来訪者数は大幅には減少しません。逆に、都市の魅力度が向上し、バス・地下鉄・電車等の自動車以外の交通機関での来訪者数が若干増加するだけでも、その増加量は自動車来訪者数の減少量を十二分に埋め合わせるようになります。この結果は、自動車規制による魅力度の増加を考慮すれば、都心の来訪者はあまり減らない、あるいは、増加することすらあるという可能性を示唆しています。

●都心部の魅力度の 向上とは？

一番重要なポイントは、自動車流入規制をすれば本当に都心部の魅力度が上がるのかということです。これを裏づける基礎的な研究があります。対象エリアは御池・四条・烏丸・寺町で、河原町周辺の区域に囲まれるすべての道路区間の車の通過台数、立ち寄った台数、歩行者・自転車利用者の人数、そこに面している商店の数を調べました。自動車の交通量と歩行者の数を比べて、関係性を分析した結果、通過車台数が増加すると歩行者は減るという結果になりました。このことは、少なくとも今回対象とした地域では、自動車と歩行者・自転車利用者が共存関係にな

いことを示しています。たとえば、通過する車が100台増えると立ち寄る車は3.2台増え、歩行者は26.4人減少し、自転車は1.6台減少します。これは自動車台数が減ると歩行者が増える可能性が非常に高いことを示しています。このことは、「自動車が減って都心部の魅力度が10%上がると、お客さんが増える」という結論をサポートするものだと思います。

●京都で自動車流入規制は 有効なのか？

以上のいくつかの研究を見ると、自動車の流入規制は、CO₂の削減・都心部と観光地の魅力度とにぎわいの増進・歴史性の復活という意味において、有効な施策である可能性が高いと言えます。なぜなら、海外の事例・シミュレーション分析・統計分析のいずれもが一貫してその有効性を示しているからです。もちろん、地域固有の事情やさまざまな問題はあるとは考えられますが、少なくとも、流入規制が有効に機能する可能性は十分にあると言えるでしょう。そして、今回示したいくつかの分析を含めて、流入規制の有効性を説得力ある形で市民・商店街・行政の皆さんに提示できれば、その実現も不可能ではないと思います。

(まとめ 能村聡 松田直子)

水俣市が進める住民協働の環境モデル都市づくり

～ ローカルアジェンダ21 としての水俣市の取組 ～



前号の「あじえんだ」では、中口毅博さん(環境自治体会議 環境政策研究所 総括研究主幹)に、「よいローカルアジェンダ21」のあり方について解説していただきました。今回ご紹介する水俣市は、公式なローカルアジェンダ21を策定していません。しかし、平成8年(1996年)9月に策定された「第3次水俣市総合計画」は、「よいローカルアジェンダ21」に近いものだと思います。今年(2000年)2月と5月に水俣市を訪れた際、水俣の方にうかがったことを私なりにまとめてみました。

●はじめに

水俣市は熊本県の南部、鹿児島県との県境にあります。人口は33,000人(世帯数12,000世帯)、面積は162.6平方キロメートル、水俣川流域に広がる農林水産業のまちです。

かつて、世界的にも有名な公害病である「水俣病」が、この地域の多くの人々から生命や健康を奪いました。地域における人と人との関係・自然と人との関係がいったん破壊されてしまった水俣市。しかし、「対立からは何も生まれない」ということに気づいた行政・市民・被害者・事業者が、対話や協働により水俣の再生に向かって行動し始め、平成4年(1992年)には「環境モデル都市宣言」を行いました。そして、平成8年(1996年)9月には、「第3次水俣市総合計画」が策定されました。

●第3次水俣市総合計画

第3次水俣市総合計画は、地域の持続的発展をテーマとしたまちづくりのマスタープランです。このプランの作成を行った「みなまた21プラン市民会議」は、市民からも委員公募を行って組織されました。そしてこの計画は、市民委員が自ら提案書を作成し、各地区単位で議論がなされ、議会で議決さ

れたものです。

水俣市では、この第3次水俣市総合計画に基づき、「環境・健康・福祉を大切にする産業文化都市」づくりを将来ビジョンとし、「水俣病問題の解決と環境再生・創造」「自然とともに生きる生活の創造」「人にやさしい生活の創造」「元気で賑わいのあるまちの創造」「水俣文化の創造」「市民参加のまちづくり」の6つの基本方向を掲げて施策を展開することとしています。そして、「きれいな川や海を守る」「環境学習都市づくり」「リサイクルのまちづくり」「市民自ら行う地域づくり支援」などを基幹プロジェクトと位置づけて、市民や事業者と協働して取り組んでいます。

●具体的な取組

水俣市では、第3次水俣市総合計画が策定される以前の平成2年度(1990年度)から、水俣再生への気運をつくりあげるために「環境創造みなまた推進事業」を行ってきました。そして、水俣病問題だけではなく市民相互の理解も深めて、住民の自治組織「寄る会みなまた」(行政に依存しない組織)の設置など、市民組織づくりの拡大を進めたのです。また、市民と市職員が協働し、地域資源マップや水の経路図づくりなどを行ってきました。このような水俣における市民参加型の取組の成果として、他に以下のようなものが挙げられます。

- ・21種類の分別回収などによるごみ減量
- ・リサイクルの取組
- ・我が家のISO活動
- ・地区環境協定
- ・エコショップ認定制度
- ・市役所のISO14001認証取得
- ・学校版ISOをはじめとした環境モデル都市づくり
- ・まちおこしも兼ねた修学旅行コース

や体験学習コースとしての環境学習プログラムづくりと関連施設整備・環境に配慮したものづくりを支えている職人「環境マイスター」認定

●おわりに

水俣の取組のキーワードは「もやい直し」。「もやい」とは、「人々がお金や労力を出し合い、共同で仕事をする」ことで、水俣病で断ち切られた人々の関係を修復しようという願いがこめられています。公害病による自然破壊・地域破壊の後、水俣市では、行政・市民・被害者・事業者の「協働」を通して、水俣病と向き合い、「地域再生」「もやい直し」の気運を高めてきました。水俣市の成果に京都が学ぶべきこと、それは「協働」のあり方だと言えるでしょう。もとより京都には、気候風土に順応した、つまり環境にやさしい生活・文化・産業を育む気風があり、社寺の境内や市街地周囲の三山など自然とふれあうフィールドがあります。これらとふれあい、学ぶ施設もあります。さらには、活発に環境活動に取り組んでいる自治会・市民団体・企業なども多く存在します。こうした豊富な資源および人材を有機的につなげることで、経済発展・環境保全・地域づくりを同時に満たす持続可能な都市を築く道を探りたいと思います。

宇高史昭
(京のアジェンダ21フォーラム事務局)



水俣の地域づくりに関する情報誌

Q 台所の排水について質問です。私たちがなにげなく台所排水として流してるものの処理は、一体どうなっているのでしょうか。お米のとぎ汁や味噌汁の残りは流してもいいんですか？
(北区 C)

A 下水道の早期整備を積極的に進めてきた京都市では、市民の皆さんの99%が下水道を利用しています。集められた下水は処理場へと流れていきます。そして処理場では、微生物の働きによって汚れを分解・処理するなど、いくつもの工程を経て次第にきれいな水となり、川へ放流されます。

通常の家庭からの排水はそのまま下水道に流すことができますが、下水管がつまったり、処理場の微生物の働きが悪くなるような固い紙、天ぷら油や生ごみなどは下水に流さないようにしてください。また、ガソリン、塗料やたばこは下水管の中で爆発する恐れがあるので、絶対に流してはいけません。

汚れた水を集め、処理してから河川や海へ返している下水道施設は、自然界の水循環において大切な役割を担っています。下水道を正しく大切に使うことで、川や海はきれいに

なるのです。(京都市下水道局)

下水道が整備されているとはいえ、汚れた水をきれいにするためには大変な手間とエネルギーが必要とされます。「お米のとぎ汁を植木鉢に撒く」、「味噌汁や飲料をできるだけ余らせないようにする」など、日々の生活のなかで「排水」を少なくする努力も大切だと言えるでしょう。(「あじえんだ」編集部)



未来に残したい...
京の知恵

其の四、

軒すだれ

窓から一尺五寸ほど離して軒先にすだれを掛ける。雅な言葉では「御簾」である。京都の町中の夏の西日も、このことで二度は涼しく感じる。エアコンの節電になり地球に優しいとなるのだが、この簡素な仕掛けにはもっと深いものがあるようだ。

この町の景色づくりには一文字瓦屋根や町家の虫籠窓や格子もあるが、この軒すだれも大事な役者だ。建材というにはあまりに繊細で軽く柔らかな自然素材だが、それだからこそ長持ちする姿をつくる。

だが、軒すだれがもつとも才能を発揮するのは部屋からの眺めの時で、外の景色の良いところだけを品良く見せてくれる。小さくとも自分の庭であれば手入れに努めるが、視線をあげるにつれ色々と都合の悪いものが目に入ってくる。

隣の家の裏側であつたり、年々みすばらしくなるマンションの横顔であつたり、それらが登場する視界の上半分を優雅に穏やかに消し去ってしまう。

水の底のようなほの暗い抽象的な美の世界に、いつしかこちらの精神も高まるような気がいたします。

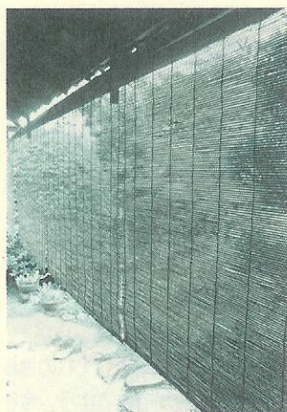
ものを大切に扱い、節約を心がけて町と一緒に生きる。しかし、それが同時に暮らしの美をも生み出すことを、この軒すだれという伝統のエコロジーは教えて下さる。

恩地惇

(会員、環境デザイナー)

GK京都 取締役社長

協力 上京区 佐野邸



環境まちづくり交流会 in 京都 (6/8 ~ 11)

6月8日～11日、環境月間の行事として開催された「環境まちづくり交流会in京都」。参加者は延べ900人以上にのぼり、環境まちづくりに向けて、今後の活動のヒントとなる情報を共有することができました。



分科会の様子

<分科会>

● 地域内の連携でライフスタイルの変革を(第1分科会)

ライフスタイルワーキンググループが担当した分科会のテーマは、「環境を考えた地域づくり～賢い暮らし、上手な買い～」。商店街の活性化と環境保護に取り組んでいる大映通商店街の森春生氏、地域での環境学習や実践に取り組んでいる2つの地域女性会(三好悦子氏、西川富久子氏)から報告がありました。その後、商店街のありかた、環境を配慮した買い物などに関する現状と課題について活発な議論や提言がありました。ライフスタイルを変えることは簡単でないとの意見もあった一方、「商店街は特色をもつことで活性化をはかることができる。地域の多様な団体や組織と連携し、環境保護に取り組んでいく」などの前向きな意見も出され、今後の活動につながる分科会になりました。

(ライフスタイルワーキンググループ 田浦健朗)

● 「京都・環境マネジメントシステムスタンダード」初の説明会(第2分科会)

企業活動ワーキンググループにおいて検討されてきた「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード(KES)」の初めての説明会であるにも関わらず参加者は70名を超え、具体的なご意見・ご質問もいただきました。なかでも、「中小企業に金銭的・時間的負担をかけずに環境問題に取り組んでもらうためにKESは非常によいシステムだと思います。京都のみでなく、ぜひ多くの自治体へ展開する活動につなげてください」とのご意見には、これからの展開に大きな励みと重大な責任を痛感しました。KES成功のために、多くの方々のご協力をよろしくお願いいたします。

(企業活動ワーキンググループ 津村昭夫)

● 自治体の環境マネジメントの動向を見る(第3分科会)

ワーキンググループの担当ではなく、特別に開かれたのが「自治体の環境マネジメント」のあり方をテーマとした分科会。ここでは、3人の講演者から全国の動向と、豊中市と上越市の事例が発表され、活発に意見が交わされました。

各講演者の共通意見は「環境マネジメントに必要なのは、まず行政と住民のパートナーシップを構築すること」で、そのためには、行政は市民が参加できる環境を整え、必要な情報を公開・提供し、説明責任を果たすことが必要だというものでした。豊中市と上越市の事例の違いから、立地条件や、従来からの地縁団体と新しいテーマ別のNPOといった2種類の市民団体の熟度に応じて、その地域にふさわしいマネジメントの手法を用いることの大切さを実感しました。

<基調講演 & シンポジウム>

● 「風の道」を生かした都市計画

基調講演では土木学会環境システム委員会の一瀬俊明氏より、ドイツ南西部に位置するシュツットガルトの再開発計画の事例とともに、環境に配慮した開発と経済効果の両立をキーワードとしたドイツの環境アセスメント制度や、都市開発のガイドラインについてお話がありました。特に、計画区域の気候の改善の抑制を目的とした都市計画へのアドバイスの手法のひとつとして紹介されたのが、市街地が谷に位置するシュツットガルトでの「風の道」を利用した都市計画です。夜間に周囲の丘陵地帯で起こる自然の風(冷気流)の流れを市街地へ導入することで、ヒートアイランドと化した都市を冷やすという方法は、山に囲まれている京都市でも生かせる事例では、という提案も込められた講演でした。

● 社会実験の効果はいかに(第4分科会)

藤井聡さん(京都大学大学院工学研究科助教授)に、都心における自動車交通についてご報告をいただきました。(詳しい内容は巻頭特集をご覧ください)

交通ワーキンググループでは、周辺地域との交通連携を考慮しつつ、都心における持続可能な交通の将来像(ビジョン)をまとめる話し合いを進めています。めざすプランの基本コンセプトは、歩行者の最優先、都心への自動車流入と通行の抑制、中心街路へのトランジットモールの導入、LRT導入を含む公共交通、自転車利用の大胆な促進策などを包括しています。幅広い市民・事業者・住民など地域の利害関係者・関係行政部局と徹底した議論を行うたたき台として、このプランを活用したいと考えています。

(環境にやさしい交通体系の創出ワーキンググループ 能村聡)

● 京都での実践活動に向けて(第5分科会)

水俣市愛林館館長の沢畑氏より、山林の植樹・下草刈り等の農作業を中心とした様々な体験教室を通じて、自然の中で地域の人々と都市の人々との交流が深まる水俣市の里山での取り組みが紹介されました。スライドで見た地元の人たちの手で積み上げられた石積みの美しい棚田が印象的でした。

町家倶楽部ネットワークの小針氏からは、町家に住むに至った実体験と、ものづくりを糧とする市外の人々が自分で家を改装できる魅力から西陣に住みつくといったように、個々の活動が結果としてまちづくりにつながった西陣における町家の活動事例が報告されました。

いずれもエコミュージアムという言葉は使わずして、その風土に根ざした普段の人々の生活を外から来た人々が再評価することで、地域を映し出す鏡としてのエコミュージアムの活動を成立させた事例でした。エコミュージアムワーキンググループでは、2000年度は全国のエコミュージアム活動グループと連携を取りながら、毎月研究例会を行い、学習体験活動によりメンバーの交流を深めていきます。2001年度には京都でも実践活動を行いたいと考えています。ご参加お待ちしています。

(エコミュージアムワーキンググループ 笹谷康之、幸場喜郎)



市民団体・事業者による
展示 コーナー

● 今後につなげる

最後に行事のまとめとして開催したシンポジウム(コーディネーター 小幡計画推進委員長)では、各分科会の内容を報告し共有しました。参加者からは、質問や「パートナーシップで進められる交流会が、発表の場になっていように感じた」「企業・消費者の区別なく、学習と実践なくして環境問題解決はあり得ない」「市民・企業・行政の情報の共有により信頼関係を築くのが大切」といったご意見もいただきました。

皆様の意見をうけとめ、参加者の方々が共有した情報をそれぞれの地域で生かし、次回その結果を持ち寄って一歩進んだ交流ができるよう、今後も「環境まちづくり交流会」を開いていきたいと考えています。

(事務局アシスタント 佐藤桂子)

各ワーキンググループの活動について詳しい情報をご希望の方は、
京のアジェンダ21フォーラム事務局までお問い合わせ下さい。

(仮称)

KES
Kyoto Environmental
Management System Standard

**試行
迫る**

京都の環境にやさしい企業を応援しようと検討されてきた「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード (KES)」(仮称) が、まもなく試行されます。今回はその概要を紹介します。

● KES 誕生の経緯

企業活動ワーキンググループは、企業等の組織において「環境にやさしい活動や製品づくり」に取り組んでいただくことを主な目的として活動しています。

最近、多くの市民団体や行政・大企業等が「環境にやさしい」の基準の一つに「ISO14001」の認証取得を挙げる例が増えてきています。一方で、平成11年11月に京都市が資本金1億円以下で従業員が10～100人規模の企業に実施した「企業の環境活動に関する調査」の結果概要によりますと、「環境問題の捉え方と取り組みの程度」についての質問に、70%の企業が「重要な課題である」と認識しているにもかかわらず、80%弱の企業が「あまり取り組んでいない」と回答されています。また、「環境問題に取り組む上での問題点」についての質問に対しては「コスト上昇」と「情報不足」がともに約40%の回答でありました。

大企業や行政機関では「ISO14001」の認証取得の取り組みが活発化していますが、90%以上を占める中小企業では、具体的で取り組み易く、かつコスト削減などのメリットにつながるような環境問題への取り組み手法が求められていると考えられます。

そこで企業活動ワーキンググループでは、これらの実態を考慮して、「京都らしい基準」(これを「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード＝KES」と呼ぶ)を作成し、「ISO14001・環境マネジメントシステム」の認証取得とともに「環境にやさしい基準」の2本柱とすることを考えました。

● 趣旨と特徴

KESは、次のような趣旨で作成されています。(1)認証取得の目的は「環境問題に関心を持ち、日常的にその取組

みができる」、(2)多くの規模の組織(企業・自治体・学校・家庭等)に適用できる、(3)規格の内容や表現が平易で取り組み易い。また、取り組みやすくするために2つのStepを設けている点が、KESの特徴と言えます(表参照)。Step1は、環境問題に取り組みはじめた段階を想定したもの。Step2は将来の「ISO14001」の認証取得を目標に取り組む段階で、KESの継続がISO14001認証取得につながります。これにより、組織の実態に即した取組みができる仕組みになっています。

(企業活動ワーキンググループ 津村昭夫)

表：KESの仕組み

適用規格	KES (Step1)	KES (Step2)	ISO14001 (参考)
環境活動取組み段階	初級	中級	上級
環境活動取組みの目的	環境管理活動の輪を広げる	将来ISO14001認証取得を目指す	即ISO14001認証取得にチャレンジ
構成項目	(1)環境宣言 (2)環境影響評価 (3)環境改善目標 (4)環境改善計画(実行) (5)最高責任者による評価	(1)環境宣言 (2)環境影響評価 (3)計画(環境改善目標) (4)実行 (5)確認と修正(自己評価) (6)最高責任者による評価	(1)環境方針 (2)環境影響評価 (3)計画(目的・目標) (4)実施及び運用 (5)点検・是正(内部監査) (6)経営層による見直し
環境影響評価の事例	チェックリスト等 簡易評価法	チェックリスト・ 評価算定法等	規格要求ロジック
マネジメントマニュアル	表形式	簡易マニュアル作成	規格要求マニュアル
支援体制*	コンサルタント 認証審査	コンサルタント 認証審査	コンサルタント

* 支援体制：京のアジェンダ21フォーラム [KES認証部] (仮称) による。

おさそい/ごあんない
INFORMATION

エコツーリズム月例セミナー開始 ～「学び」と「意見交換」の場をめざして～

エコツーリズムワーキンググループでは、幅広い市民が「エコツーリズム」にふれ、考え、話し合う機会をもつために、月例セミナーを開催していきます。

6/16(金)に開催された第1回セミナーは、塚本珪一先生(平安女学院大学教授)の「21世紀の京都観光戦略～エコツーリズムをめざして～」。

参加者の皆さんからは「もっと『京都発』の観光情報を」「エコロジカルな旅を可能にするインフラ整備が何より必要」といった重要な課題が次々に発言されました。こうした声を現実のまちづくりに反映させることをめざしていきたいと考えています。

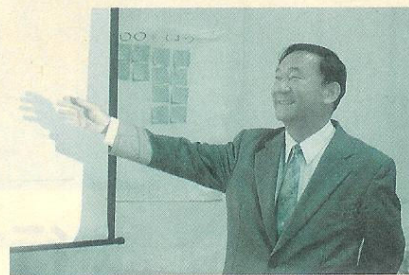
※月例セミナー開催については、事務局通信月刊「あじえんだ」でお知らせしております。

ひと
まち
きたる

津村 昭夫 さん

(企業活動ワーキンググループ世話人)

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動
されている方を紹介していきます。



KESの説明をされる津村さん

津村 昭夫さん：日本電池（株）環境管理室長、及び（社）京都工業会環境委員会委員長。1999年4月に企業活動ワーキンググループが設置されて以来、「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード（KES）」（仮称）の策定に関わる。

——企業の側からアジェンダ21フォーラムに関わられていかがですか？

現在電池工業会の環境副委員長や、環境庁の環境カウンセラーの有志でつくっている「環境カウンセラーズ京都」の副会長もしています。これまでは企業の中での環境活動に取り組んできましたが、アジェンダ21フォーラムに関わることで、企業の枠を超えて市民の方々と楽しみながら環境に関する活動を行っています。KESを広く一般に拡げていくことにもやりがいを感じていますね。

——KESの特徴は？

ISO14001の認証をすぐに取得できない事情のある企業等が京都独自の基準だけでも取り組めるよう「わかりやすく」「安く」したのが特徴です。KESは自主点検のもと自主宣言を行い、それに基づいた取り組みを始めていくという簡便な規格です。またISO取得に数百万円の経費がかかるとすれば、KES取得には相談等の最小経費として数万円程度の負担で済むよう考えています。

——KESを進めて行くうえでの課題は？

果たして使う側にとって使いやすいかがが不安です。これから12月まで、半年かけて10組織程度で試行し、その経過を踏まえて補強・修正を行っていきます。また審査員・コンサルタントや事務局の開設等の経費抑制が重要な課題で、リタイアされた方等を中心にボランティアベースで主旨に賛同していただけるメンバーを募っています。

——KES誕生のきっかけは？

平成11年11月に京都市が実施した、いわゆる中小企業

の「環境活動に関する調査」において、70%が「環境問題は重要」と認識しながら、逆に80%が「何も取り組んでいない」、その理由は「何をしてよいのか分からない」「コストがかかる」と回答されました。

ISO14001認証取得は大手企業や行政には急速に広がってきていますが、圧倒的多数の中小企業が「環境面に対して何をしたいかわからない」「コストがかかる」とISOに関心が向いていません。また、各企業がさしあたってKESに取り組んでいただいたら、その後、ISO14001取得などのサポートも可能と考えています。

——KESを拡げていくにあたって皆さんに期待されていることはありますか？

一番期待しているのは環境教育などを通じて小学校・中学校などで、また家庭でも取り組んでもらうことです。例えば家庭では電気をこまめに消す、風呂に満水警報機をつける、といったことを実施することです。とはいえ、今後は子どもが親より率先して何かをしていく機会が増え、親の無駄づかいを子どもがシビアに指摘する日もくるかもしれません。

——最後に読者の皆さんに。

環境という問題に関わっていくにあたって一番心配なのは総論賛成・各論反対の議論になってしまいがちということです。したがって「何らかの活動をはじめる、そしてそれを日常的に継続する」ことが重要だと考えます。

——どうもありがとうございました。

(聞き手・撮影 山口 洋典)

京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

◇郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

◇銀行振込口座：三和銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

みやこ

京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2000年夏(第4号)

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都府環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：佐藤桂子・竹花由紀子・千葉有紀子・松田直子・水口保

デザイン・レイアウト：藤本芳一・山口洋典

※このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。